

Fast life, slow life

村越真のオリエンテーリング日誌

村越 真

3月末の好調ではしゃぎ過ぎたつけを引きづりながら、新学期が始まった。天才テレビ君取材、モンベルのトライ&キャリーで、相変わらずアクティブなゴールデンウィーク。メインイベントは5月末のハコネトレイル 50km。

4月7日 市民大会

J-stepでの市民向け大会前日。翌日はオリエンテーリング愛好者の参加を増やすため、午後は静大裏山でミドルのセルフサービスイベントを行なうことにしていた。調査は3月中に終えていたが、コントロールを置いてみると、その周囲の地図表現が気になる。コース図を持って最後の地図調査。この念の入りのよう、WOC 並だね。

4月8日

清水のJ-stepでの市民向けオリエンテーリング大会を開催。絶好のオリエンテーリング日和。集合は9:30だったが、9時に現地に着くとすでにアラジンの社長、店長も来ていた。彼らは僕以上に清水でのオリエンテーリングの普及に熱心だ。運営を頼んだ静岡オリエンテーリングクラブのメンツもぼちぼち来ている。

事前申し込みをしていないので、何人くるのか一抹の不安があったが、蓋を開けてみたら 120 人の参加だった。予備にレーザープリンターで地図刷っておいてよかった。

とりわけ嬉しかったのは、30 名の小学生の参加があったことだ。近くの小学校の高学年にピラをまいた効果だ。また家族の参加もあり、「地図の見方が勉強になり、頭の体操になった。足の訓練になった。」「探検みたいで楽しかった。」と、概ね好評だった。

興味深いのは、J-step 周りにほとんど森がなく農地改良をした緩斜面上に果樹園と農道が広がっている、オリエンティアにとっては面白いとは思えない場所だったにも関わらず、昨年公園で本格的 0-map を使ってやった時よりも評判がよかった点である。一般の人を対象とした普及イベントをやる時には、私たちの感覚はむしろバリア



▲ゴールデンウィーク前半。天才テレビ君の取材の合間に、加藤ジーナと。

になってしまう。異なる感覚でオリエンテーリングを楽しむ人たちをどう愛好者仲間に入れていくかに、難しさを感じた。

もう一つ興味深かったのは、二度もラジオでインタビュー+宣伝をもらったにも関わらず、アンケートを書いてくれた人の中で「ラジオを聞いて来た」という人が一人もいなかった点である。口コミは相変わらず有効ではあるが、昨年一人もこなかった近隣の小学校のピラでは、今回は多くの小学生を集めるのに成功している。普及の効果的な方法にはまだまだノウハウの蓄積が必要ようだ。

4月15日

長い距離を走る準備は出来ていないが、5月末のハコネトレイルランに備えて、長い運動をしておきたい。身延線沿いに徳間まであがって、そこから東海自然歩道沿いに降りてくるという約 80km にマウンテンバイク乗りに出かけた。東海自然歩道、特に徳間の青少年旅行村から田代峠を越える部分は谷の奥に似合わぬ緩斜面が広がっており、独特の雰囲気がある。800m くらいだろうと思っていた峠は実は 1100m ほどもあり、最後はかなりへばった。峠を越

えると、清水側の林道は思いの外峠近くまで伸びていて、後は長い林道をのんびり帰る。途中登りでは左胸に違和感がでて、へこむが、その後回復。



▲非常勤先の短大での授業風景。よもぎを摘んできて、草餅を作って食べる授業。「こんな楽しいのが授業なんて信じられない」というコメントが嬉しくも悲しくもある。

4月21日

ウィークデーに、NHK の子ども番組「天才テレビ君」の取材の依頼が来た。この日は、昼頃静岡駅で打ち合わせ。清水より往復マウンテンバイク。帰りは日本平山中を抜けて帰る。

4月22日

久しぶりに 90 分の日本平ランにでかけた。3 週間くらい前に走った時はふ

らふらだったが、今回は最後まで身体が動いた。わずかつづではあるが、身体ができてきている。

4月28日 天才テレビ君ロケ

東京谷中で、天才テレビ君のロケ。ほんの16分の番組の取材に丸一日かかることは珍しいことではないが、今回は街と山の中で、二日間の予定。しかも、ディレクターのスタンスが甘いせいか、待ち時間がいつも以上に長い。

一緒に出演するのは、同番組のテレビ戦士「加藤ジーナ」と「藤井千帆」。ジーナは地図読みは得意、千帆は苦手だという。

実際歩かせてみると、ジーナは地図をきっちり読んで8分で目的地に着けたのに対して、千帆は途中から全く分からなくなって、現在地のヒントを与えながら40分かかった。面白いのは二人の違いは地図の選択時から現れている点だ。

イラストマップから詳細な地図まで、いろいろな地図を示して、本人に使う地図を選ばせたが、ジーナが詳細な区分図を選んだのに対して、千帆はイラストマップを選ぶ。地図が苦手な子は、一見見やすいイラストマップを選んでしまい、その結果地図にだまされ、ますます地図を読むのが苦手という悪循環に陥ってしまうのかもしれない。

それでも、現在地のヒントを与えたあとの千帆は、整置をしてルートを考えたり、チェックポイントの確認をしたりと、最低限の地図読みはできていた。彼らがうまく地図が使えないのは、一つ一つのスキルではなく、それをシステムティックに使いこなせていないことが原因なのかもしれない。

その日の夕方は関東一円で突風を伴う荒天になり、ロケは翌日に延期。寒冷前線性の雨は16時には上がってしまったが、延期はすでに決まっていたので、早めに宿舍の渋谷へ。時間があったので、代々木公園に走りに行く。疲れているので40分くらい走るつもりだったが、走ってみると気持ちよく、85分走った。

4月29日

この日も谷中で撮影を行ない、夕方飯能へ。翌30日は高麗の日和田山での撮影だ。街での読図試験に合格したテレビ戦士が今度はもっと難しいアウトドアでの読図に挑戦するという想定だ。まず巾着田で、スタートシーンをとり、その後山に移動。ある程度台本はあるが、基本的には子どもたちの行動に任せ、大きく間違いそうな時に、ヒント

を与えるといった感じで進む。前半の単純な道の部分ではうまく進めた子どもたちも、後半の小径が錯綜する部分では、うまく現在地を把握することができない。

そして感動の山頂へ。3日間一緒にいると、子役とも気持ちに通うような気がする。ジーナもなついて親子気分。山頂で肩もみまでしてくれた。

5月3日

この日から始まるゴールデンウィーク4daysでは、MNOPとしてワークショップの手伝いをするようになっていた。ワークショップが始まる夕方までは、5月末のミドル選考会のための地図調査の残りを仕上げる。前からヤブだったエリアはかなりきれいになっていたが、その分溶岩が形成した複雑な地形を確実に地図化しなければならない。ワールドカップに使われた2000年時の調査者は中村弘太郎だったはずだ。今では日本を代表するマッパーとなった彼だが、2000年は、まだこんなレベルだったのかと時の流れを感じながらの調査。

日頃から腰痛と肩こりを訴える怜を連れていき、親子でありに針を打ってもらった。

5月4日 :またもメンター発見

モンベルのトライアンドキャリアを見るため、石川県羽咋に向かった。たった2時間なのに、高速の運転でかなり疲労感あり。ひなたの調査で、さらに疲労感。そのくせ、今浜まで走って帰って、くたくた。

5月5日

昨日の疲れはかなり取れたが、午前中はやる気なし。しかしミニアドベンチャーレースに出場を決めると、「アドレナリンが出る」。最近こういう刺激が不足しているからな。午後は、兼六園を見学したり、ゆっくり食事と飲みを楽しむ。



▲モンベルのトライ&キャリアにて。社長の辰野氏自ら女の子にエスキモーロールの指導。そのホスピタリティーがモンベル成功の秘密とみた。ここにも我がメンターがいた。

5月6日

福井で行なわれている綾の試合に寄って、2試合ほど見てから帰る。高速はがらがらで、福井から4時間半、17:30には清水に帰りついてた。オリエンテリングとは関係ない旅行をする連休は生まれて初めて？帰りの高速も2時間運転するが、運転中ねむけのような集中力を欠くような不調感あり。なんだかんだいっても半分「仕事」なので疲れているのだろう。

5月7日

3日間連続で世界選手権関係の夢を見た。1日目は中堅国相手にトレーニングキャンプをする夢で、残りの二日は地図調査の夢だった。空中写真を見て、「これは使える」と思うリアルな夢だった。

さらに翌日はアドベンチャーレースをしている夢をみた。これは強迫観念なのだろうか、それとも再びチャレンジする日を待ち望んでいる夢なのだろうか？どちらの夢もワクワクするようなポジティブな感情も、義務感でやらされているネガティブな感情もないニュートラルな夢だった。きっと、それは潜在意識を忠実に反映しているのだろう。

5月11日

朝起きると、自転車で出かけないともったいないほどの五月晴れ。今日は夕方からJOAへ出かける用事があった。こういう時は帰りのことを考えて車でいくのだが、今日は天気の誘惑に勝てなかった。授業を終えてJOAへ。会議は疲れたが、夜道の自転車が心地よかった。

5月13日

久しぶりに家でのおんぴりの土曜日。午前中はやる気なく、だらだらと道迷い本の改訂版の執筆をする。2001年に出て、あっという間に6刷を重ねた。田中正人は「読むほどに発見がある」と言ってくれたが、こちらは読むほどに「よくこんな不完全な本が世に出て、しかも市場と専門家にも受けたものだ」と思う。30代の時、へたくそな学生オリエンティアたちとつきあった実体験と、彼らのために徹底的に考え抜いた理論的バックボーンがあったればこそ成功だったと改めて思う。その後数年間の間に、より広い対象の人たちに地図読みを教える機会を持ち、また研究や調査も積み重ね、また人的交流も進んだ。さらに進化したナビゲーション本ができそう。

夕方は、ハコネトレイルランレース

の予行演習でハイドレーションを背負って 100 分走る。ハイドレーションパックの上部の空気抜きを忘れて、走るときにちゃぶちゃぶいって煩わしい。こういうのは実際に使ってみないと分からないものだ。レース時間に比べたらはるかに短い時間だが、走れそうな気がほんのちょっとしてくる。

5月14日

綾の学校で、地域向けのヨガ講座の募集があって、この日からいくことにした。彼の学校の、英語のアシスタントティーチャーがインド人で、ヨガの指導者資格を持っているのだ。禅やピラティスなど心身相関的な活動は一通り興味を持っていて、前からヨガにも興味を持っていたのだが、「Oggi」あたりを読んでいるちょっと知的な30代女性がやっているイメージがあって敬遠していた。今回は、本場インドの先生に習えること、9回シリーズで受講料がたった1000円なので、喜んで応募した。午後の連続授業でやや疲れ気味の日であったが、さっそく効果あり。

5月15日

比較的气合いの入る授業二つで、やや疲れ気味。ランの最中左胸にかなり強い圧迫感があり、60分ほど走る予定が、40分で断念、走ることができず10分歩いて大学に帰る。ハコネはやっぱり第二関門までだなと思う。

5月20日 宝探し

父の実家のある小田原で、蔵を壊して、土地も処分するという。この蔵にはマンション暮らしの父が、私が子どものころ作った工作や大学時代のオリエンタリングのトロフィーなど、捨てられないが日常生活では邪魔にしかならないものがしまわれている。その「宝探し」に出かける。

幼稚園から小学校6年にいたる図画作品は、きれいにスクラップされていた。それをみて改めて思ったのは、「絵と文字には全く才能がなかったが、地図には天才的な才能があった」ということだ。小学校1年の時に、通学路の地図を描かされた。その時、幼いながらも、他の子どもの地図とはレベルが違うとほのかに思った記憶があるが、その地図も出てきた。発達心理学的に言えば、この年代の子どもは地図を完全に上からの視点で描くことができず、店や学校の正面図を添えてみたりする。この通学路の地図はそうした絵地図的要素を排した、不気味なほど地図らしい地図だった。

小学校5年生の時に地形図から作った丹沢の立体模型も出てきた。5年生

の時、一夏かけて、2mm厚のボール紙を金属加工用の糸鋸で切って作った作品だ。主軸線を2mm厚のボール紙にして垂直・水平比を1:1にしたところにも、小学生らしからぬこだわりが見られる。



▲田舎の蔵で親子三代、宝物探し。足下にあるのが小学校5年から中学1年にかけて作った地形模型3作。

5月26日 ハコネトレイルラン：気分は横山峰弘

JOA 総会。興奮と緊張で早起きしてしまう。総会でも理事会でも、少しずつ未来を見据えた議論ができるようになってきた。「村越さんはどんなビジョンを持っているのか？」と問う若い理事たちの発言はヘビーではあるが、組織を動かす原動力ともなりえる。自分の責任をわきまえ、できることとできないことを見極め、できることに最大限に努力する知恵を持ちたい。新しい若い理事たちにも期待したい。

充実感はあったが、さすがに箱根に向かう電車ではぐったりした。宿にいたのは19:30すぎだった。すでにカッシー、利佳ちゃん、許田、長柄さんは到着し、準備に余念がなかった。夕食後、翌日の行動食を整理すると、心なしかワクワクする。



▲ハコネトレイルラン前夜。行動食のパッケージの余計な部分を切り落として、気分は横山峰弘。

5月27日

ハコネトレラン当日。目標は約40km先の第二関門である。ロゲインを除けばこの半年3時間以上の運動をしたことがなく、最近もいいとこ100分止まりのトレーニング量で、55kmという距離が果てしなく遠く思える。第二関門でさえ到達できるのだろうか。筋肉にダメージを与える登り下りでは過剰とも思える自重した走りをした。

そのおかげと、どこまで言っても続くアスリートの流れに刺激され、ペースは落ちてきたものの芦ノ湖湖尻の第二関門が近づいてきた。脚で痛いところがでたらやめよう、気分障害が出たらやめよう、胸痛がでたら即歩こう、その他様々なやめる言い訳を想定していたが、そのいずれも発生することなく第二関門に来てしまった。どうせこの先神山越えは登りも下りもほとんど走らないはずだ。棄権の口実もなく、第二関門から先に走り出してしまった。

さすがに神山の登りでは脚も胸も重く、また下りではひざにかなりの負担が来たが、なんとか走り終えた。やっぱり完走には達成感がある。

三河高原トレイルランニングレースに招待した横山峰弘さんに挨拶にいくと、開口一番「ふがいない成績で済みません」。今年はトレイルランニングレースに賭けるという横山さんのパフォーマンスに期待したい。



▲使用前。元弟子の許田、田島と。

5月29日

1日たって、朝からやや疲れ気味だ。気分は悪くなかったの自転車で行くが、集中力に欠けていた。横断歩道のない車道を渡ろうと思って停止した時に、ピンディングベダルだったのを思い出したが、焦ってはせず、立ちごけ。その時はあまり痛みを感じなかった左尻は、午後からははっきりわかるほど腫れてきた。そんなこんなで終日うつうつしていたが、夜のニュースで、日本に38年ぶりにミスユニバースをもたらした静岡出身の森さんの受賞挨拶で、「自分がこれからどれだけがんばれるか期待していきたい」という表現に心打たれた。

(村越 真)